

福島県PTA連合会会報
第22号_S61. 10. 20

大会主題

— 21世紀にはばたく 心豊かな子どもを育てる P T A 活動を推進しよう。 —

第三十五回福島県PTA研究大会 第十八回東北PTA研究大会

郡山大会、盛会裡に終わる

第三十五回福島県PTA研究大会、第十八回東北PTA研究大会は、九月十七、十八日の二日間、にわたり、東北各地、県内各地より二千五百余名の会員のご参集を得て、郡山市において盛大に開催された。

大会主題である「二十一世紀にはばたく、心豊かな子どもを育てるPTA活動を推進しよう」は、PTAの今日的課題として誠的を得たものであり、それだけに各分科会での発表・協議・指導助言はすばらしく、目を見るばかりであった。二十一世紀を展望したPTA

市民文化センターで、全体会から始まった。各分科会からの報告は情報交換にとっても役立つ。アトラクション「福原の太神楽」は離子にあわせて、きらびやかな踊りで、見る者を魅了し、今までの緊張を一瞬、とき

不登P

ま

53-5 内会男所
部会連善印刷
田年A 條版野
岩字T 孔字熊
黒P 西 泉
市島 福 島
福島市印刷
福島市印刷
福島市印刷
電話57-1071



ほぐしてくれた。中年とは思えない若さと美ぼうで登壇し、甘く柔らかな声で、切々と「私の子育て論」を講演したのは、女優の小林千登勢氏。子育ての失敗談、成功談などを織りまぜながら、話術巧みに話を進め、子育てに大切なのは何かを私達に示唆した。

拍手の嵐の後の閉会式。いつもは淋しくなりがちな閉会式も、立つ人もなぐ二千名近くの会員が、万歳三唱を大ホールいっぱいとどろかせた。

会員の心をつにさせた。感激的な大会であった。

輝く受賞者

この度の大会にあたり昭和六十一年度県連P会長よりの受賞者は次のとおり。(なお東北P連会長よりの表彰者は次号)

△感謝状△
 「県連P前会長副会長」
 前会長 国井庄八
 前副会長 吉田俊夫

「県連P前理事」
 佐藤力 添田信一
 木村 巖 石川忠義
 寺島長子 矢内脩介
 佐々木久子 鶴沼国幸
 宮本利夫 鈴木利幸
 大沼 治 和田長一

「県連P前事務局長」
 浅井賢三
 「各地区前事務局長」
 武藤長英 井上三男
 草野栄寿 深谷喜三郎
 永山親雄 幕田且夫
 鈴木茂樹 渡部多吉
 野原信夫 須佐久男
 平沢一郎 湯田武夫

△表彰状△
 福島市立鳥川小PTA
 同市立矢野目小PTA
 同市立水原小PTA
 同市立中野小PTA
 同市立福島第三中PTA
 福島市立信陵中PTA
 二本松市立二本松南小PTA
 同市立安達大良小PTA
 安達町立油井小PTA
 大玉村立玉井小PTA
 白沢村立糠沢小PTA
 本宮町立本宮二中PTA
 岩代町立小浜小PTA
 東和町立南戸沢小PTA
 郡山市立御館中PTA
 同市立湖南中PTA
 同市立薫小PTA
 同市立立母神小PTA
 同市立行健中PTA
 長沼町立長沼中PTA
 須賀川市立立山小PTA
 須賀川市立一中PTA
 三春町立岩江小PTA
 大越町立大越小幼PTA
 都路村立岩井沢小PTA
 船引町立船引南中PTA
 表郷村立表郷小PTA
 会津若松市立二中PTA
 同市立門田小PTA
 北塩原村立北山小PTA
 いわき市立渡辺小PTA
 同市立湯本一小PTA
 同市立大野一小PTA
 同市立勿来二中PTA
 同市立御厩小PTA
 富岡町立富岡一小PTA
 小高町立福浦小PTA
 相馬市立玉野小PTA
 新地町立駒ヶ嶺小PTA
 ほか個人 一〇五名

分科会報告

第一分科会

第二分科会

第三分科会

◇テーマ
「PTAの今日的役割を果たせる組織運営を考えよう」

提言では、秋田市立御野場中より、課題解決を図るPTAになるために学区内三校青少年健全育成集会を定期に行い、青少年問題等について同一歩調で対応している例が出された。草野小では、会員の協力と意識の高揚を図るために、実態調査を行い、この観点から組織運営を図っている。実際の運営では、各専門部の役割と分担を明確にし

会員相互の協力と機能する組織づくりに努めている。大里小では、専門委員会のマンネリ化を防ぐため、毎年、内容の変更及び実施方法の改善を行い、充足感のもてる



魅力ある事業になるように努めている。
○渡辺・小山先生の指導
PTAのあるべき姿として望ましくないタイプ
①マンネリ化 ②過剰行事型 ③名譽職型
・事業は短期、中期、長期に分類し、展開すべきである。
・学習、実践、広報が理想的な展開である。
・活動の視点を親の生き方を学ぶPTAにすべきである。
・一般会員がカヤの外にならない方法の検討が必要である。



◇テーマ
「子どもの健全育成をはかるために、地域活動をもりあげよう」
青森県の藤坂小では、地域活動として、子どもの育成に力を入れていく。
郷土芸能の伝承を町内会や子ども会の中に位置づけ、それらを軸として大人と子どもの連携を強め、郷土意識、連帯感を持たせるよう努めた。
西会津中では、社会教育機関や団体と連携し、子ども達に多様な活動体験を多くさせ、体験することによって知恵を身につけさせた実践例が発表された。
白河第五小からは、子どもの健全育成をはかるために、基本的な生活習慣を身につけさせる地域活動について提言があった。いたわり道路やあいさつ道路の設置、親子植林、親子宿泊訓練、しらかわ運動の推進などを通して、実践化をはかった。
○大沼、塙先生の指導
・公民館利用については



子どもが自由に出入りできる雰囲気と、もつと活用できる公民館にしていかなければならない。
・有害環境整備については、日P連協でモニター制を採用し努力している。テレビ等については、番組製作審議会に働きかけた。
・現在は、横社会になりすぎている。小・中学生を合わせて縦わり社会を体験させ、その中で、子どもを守ることから育てる活動に進みたい。
・PTAの巨大な組織を十分に生かしていきたい。

◇テーマ
「だれでも積極的に参加できる研修活動を考えよう」
宮城県松山中では、地区懇談会こそ、「親としてどうあるべきか」を考える最大の方法と考え、実践したと提言。これとあわせて親子共同奉仕作業、祖父母学級を実施してきた現在、本音の言える雰囲気生まれしてきた。地域活動にも親子ともに参加、縦と横の生涯教育が進められていると発表した。門田小では、父親を学校にと、両親学級や教育講演会を実施していると提言。また親子そろって学習しようとして磐梯登山、柳津虚空蔵尊への十三参りを恒例として行い、効果をあげている。笈川小では、PTA会報の発行を二十年以上も続けている。また、二十四年間、PTA会員の教育に対する意見を集大成した「道」の発行を続け、同じ目的を持つ者同志の連帯感を強め、PTA活動が着実に定着

し、効果があがっている。
○金子、城戸田先生の指導
子供は絶えず大人社会の影響を受けて育っている。よりよい親、教師になるには研修活動が大切だと力説し、研修の視点を助言指導された。
①よりよい家庭づくりに役立つ
②学校教育のよりよい理解者となる
③地域の教育づくりに役立つ
④よりよい親、教師、人間となる

◇テーマ
「だれでも積極的に参加できる研修活動を考えよう」

し、効果があがっている。
○金子、城戸田先生の指導
子供は絶えず大人社会の影響を受けて育っている。よりよい親、教師になるには研修活動が大切だと力説し、研修の視点を助言指導された。
①よりよい家庭づくりに役立つ
②学校教育のよりよい理解者となる
③地域の教育づくりに役立つ
④よりよい親、教師、人間となる

郡山大会

第四分科会

第五分科会

第六分科会

◇テーマ
 「家庭教育のあり方を問い直し、学校教育との連携を深めよう」
 山形県新庄小からは、「子どもと親が変わる連携会議の活動」について、学校の道徳教育の推進をもとにした活動の実態が発表された。

明和小からは、「学校教育の理解と協力のあり方をどのようにしたらよいか」について提言があった。学校と家庭との相互理解、信頼、協力の必要性が述べられた。藤田小からは、「家庭教育と学校教育の連携のあり方」について発表があった。親は親としての自覚、先生は教師としての自覚をそれぞれ持ちながら信頼し合い、連携を深めて行けば必ずから、よい教育効果があると提言された。



◇テーマ
 「家庭のあり方と親の役割を考え、学校教育と連携を深めよう」
 盛岡の下橋中は、基本的な生活習慣づくりと奉仕活動を柱にして学校教育と、家庭教育を結びつける実践活動をしている。基本的な生活習慣を身につけさせることは、ある意味で教育の原点であり、学校教育と家庭教育を結びつける、重要な親の役割である。勿来一中からは、子どもたちの健全育成のための諸活動を地区行政の中に位置づけ、長年にわたり、継続性のある取り組みをしている実践報告が発表された。この地区あげての活動は、子ども達の健全育成に大きく寄与し、ここに生活する子供達に地区への誇りと連帯意識を持たせることができた。旭中からは、進路指導における問題点について発表があった。進路を選択する場合、目先の事のみとらわれず、一人一人の子どもが人間として将来どう生

きていくかというかわりの中で考えていくことが重要である。
 ○佐藤、板垣先生の指導
 ・「中学生をもつ親のためのハンドブック」を発行し、理解を得てもらっている。
 ・連携とは、父母と教師が携えて活動することである。
 ・役員には、会員の中で自分の時間が取れる人をお願いする。
 ・進学問題は、親の意識改革が必要な時にきている。



◇テーマ
 「心身に障害をもつ子ども教育をどのように理解し、協力するかを考えよう」
 この分科会では、養護教育の目的を達成するために、PTAの協力活動をどう推進したらよいかという内容で、福島県の大越小・芳賀小・福島養護学校の三校から提言がなされた。主な内容は、(1)諸活動の実施、施設設備の充実、啓蒙活動等を中心し、子どもの身になり、体当りで激励・援助を行い、精神的な養護も可能にするように努力している。
 (2)養護教育は、早期の指導と一貫性が大事で、協力と援助をおしまないが、行政の配慮も切望している。
 (3)ダウン症の子どもの育成過程を通して障害児に対する理解を求めたい。などの提言があり、その後の研究協議では、熱心な話し合いが行われた。
 ○中丸・庄司先生の指導
 ・障害児への理解、協力は世界人権宣言の内容につきる。具体的には、直接、つき合い、交流を深め、思いやりや意欲を育てることが大切である。
 一方、教師は、子どもから学び、経験をみかくように努力することが必要である。
 ・障害児は、いつ、どこに生まれるかわからない。従って、全ての人に共通の課題であり、不安や失望のない体制を確立するために、PTAの理解と協力が必要である。



第十八回東北PTA 研究大会に参加して

県PTA連合会副会長
湯野小PTA会長
阿部真樹

七年連続して参加させて頂いた。今回程印象に残る大会はなかった。

参加者二千五百人というのは、PTA会員の自覚が増した事も事実であらうが、その熱気あふれる分科会の意見交換も心に残るものであった。今回は県PTA副会長という大任をうけてのものとあり、運営上も、責任のある立場

で郡山市連Pの会員、事務員の方々と一生懸命にやらせて頂いたが、その結果として雨の中にもかかわらず、あの様な大会であった事嬉しく思う限りである。最近どの大会も同様に講演会、を行う事が多い。今回のそれは時代にマッチし、本当に身近なテーマで、判り易くのを得たものとし、参加者に共鳴をあたえたものと思う。十八回大会を通して学びえたものを、各自単Pに持ち帰り

子供を中心とした、学校あげてのPTA活動である事を願うものである。湯野小学校も百十二年目となり歴史の中に新しい「絆」を深めてまいりつもりである。

東北PTA研究大会 福島大会に参加して

菊池昭次

「二十一世紀にはばたく、心豊かな子どもを育てるPTA活動を推進しよう」

等が後をたたない時、我々PTA会員は今こそ真剣に英知を出し合って努力する時であると思えます。特に家庭教育の充実をはかることが地域社会をよくする原点であると考えます。各県で活躍されている会員の皆さんが各分科会、全体会を通して活発な意見交換の成果を、各単Pに戻って実現に努力してほしいと思えます。子供たちが夢の実現に大きくはばたけるように、

郡山大会に参加して

念講演「私

「子育て論」を参考にし、我々地域PTA活動に精励したいものです。

初めての東北P大会 21世紀に育つ子供らの 為に努力する意義

坂下小慈育会長
小野 哲

東北各県のPTAが一致しての大会宣言、そして決議に見られる如く、社会環境の大きな変化、不可能に近い、未来の予測、そうした現況の中で、今後のPTAの在り方と行動指針を、的確にとらえた質の高い大会であった。この大会の実り急がずに、時間をかけて各単Pでもって、将来的に考えていく事が、大切であると考えます。

21世紀を考えた時、子供達は勿論、我々PTAの存在を考えた時、18回大会での、討論の重要性を幾度となく思い出して見る事も大切だと考えます。こうした、大会を通しての体験学習、経験する事が視野を広め、それが、地域での活動を生み育てていくならば、組織的な、地域ぐるみでの子育て、社会教育が可能であり、それを可能ならしめていく体験学習、研修がこれからいつそう望まれると考えます。

大会事務局から

「ご苦労さまでした。」
「ありがとうございます。」

別れのワルツにのって「よかつた、よかつた」と、胸をなでおろした。思えば、長い準備期間であった。今年の県PTA研究大会は、東北大会を兼ねるというので五月上旬より大会実行委員会を組織し、すぐ、準備体制に入った。

「充実した実のある大会、心のこもった大会」を合言葉に、郡山市P連は心を一つにして奮闘してきた。

開会行事や分科会、全体会の運営方法や、アトラクション、記念講演の持ち方など、微に入り細に亘り役員会で検討し、細かなタイムスケジュールを作成した。また、三五〇名の市P連の役員が「心のこもった大会」を志向し、何度も仕事の内容を吟味、確認し、大



会に備えた。郡山大会は、二五〇〇余名の参加者で大会の幕をあげ、二〇〇〇名近くの出席者で大会の幕を閉じた。二日間、会員を釘づけにしたもの、それは何であつたらうか。それは、内容が充実し、魅力のある郡山大会であつたためと考えられる。定刻に始まり、少しのデッドタイムもなく、定刻に終えることができたこと、日程や内容が変化に富み、飽きずに学習できたこと、巧みな話術に引き込まれ、時間のたつのを忘れてしまった記念講演、講演が終わるや否や、立席でさつと行われた感動的な閉会式；等々が大きな要因と思われる。「お便り始めまして。こんなに充実した本大会に出席し勉強できたことは感激でいっぱいです。心細い私を暖かく包んでくれ、親切にしてください。た役員の皆様、本当にありがとうございます。」青森県の一位の絶大なるご支援、ご協力を心から感謝する。

記念講演

演題「私の子育て論」

講師 女優小林千登勢先生

テレビや映画で巾広く活躍中の女優、小林千登勢氏の記念講演が、九月十八日午前十時半より一時間半にわたり、主会場の郡山市文化センターで行われた。女史は、昭和三十三年、NHKテレビドラマ「父」にて芸術祭文部大臣個人演技賞受賞。現在は、作家としても活躍、著者に「袖すりあうも嫁姑」、「お屋根のレール」などがある。

○講演の要旨

ユーモアをまじえながらの子育て論。成功談、失敗談などを織りまながら、子育ての真髄を四項目にわたって講演した。

◇子どもの個性や特性を生かす。

わが家は、五十一才の夫と中二の娘、七十四才の義母と私の四人家族である。

私は引揚者。戦争に負け、生死をさまよいながらやっと日本へ帰ってきた。

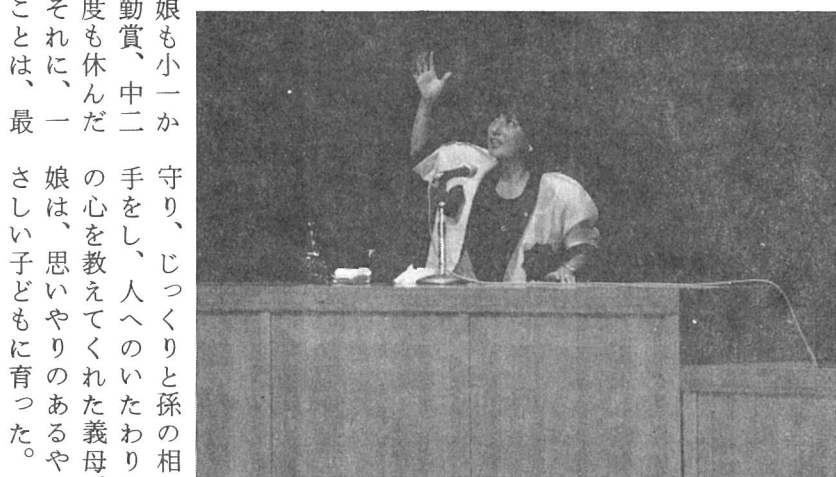
く、やさしくしながら、子どものよいところを伸ばしてあげなさい。」と、医師にいわれた。その通りになったら、勉強が好きになり、力がついてきた。

◇明るく、何でも話し合える家庭づくり

家庭には建前はいらない。必要なのは本音と思いやり。小さな食い違いはうやむやにしないでトコトンやりあつて理解することが大切だと力説する女史。子どもとの心の交流を求め、親子日記を六年間毎日続けて書いていた。

◇子どもは親を見て育つ。

仕事をして三十年、出産期間以外は一日も休まなかつたのが私の自慢である。娘も小一から小六まで精勤賞、中二の現在でも一度も休んだことがない。それに、最



度やりかけたことは、最後までとことんやり通すすばらしい根性を持つている。

◇祖父母の存在を大切にしよう。

嫁と姑の関係は宿命的なもの。家では、陽性型の喧嘩。言いたいことを言い合い、後に残さない。娘はおばあちゃんの味方。それが義母には格別うれしい。そそくさと家を出て行く私。家をしっかりと

日中友好「少年少女の翼」に参加して

二本松市立二本松第一中学校 三浦盛栄

「中国」 そこには「夢」と「希望」がありました。うまく言い表す事ができませんが五日間の貴重な経験の中で、この国の魅力や素晴らしさを自分なりにしっかりと感ずることができました。

日本の文化の源は、中国にあつた事は御承知の通り、その異国の地に立つて目にした多くの文化遺産には、その全てに驚かされました。天安門、明の十三陵、故宮博物院；中でも世界の不思議とも言われる万里の長城では、人々の苦勞と、戦国時代に生きた多くの勇姿が窺えました。

一方、今回の訪問の目的である北京師範大学第二中学校の生徒の皆さんとの交流会では、身ぶり手ぶりを混じえた会話の中で、いつしか心の通い合う温かなものを感じました。校内の参観では、どんな活動をするにしろ、上級生が常に下級生をリードして、行動をスムーズなものにしている事に気がつきました。お互いが信頼し合いながら生活を送っているからこそ、出来る事なのだと感じました。日本では、程度以上の競争意識ばかりが先に立ち心をゆがめている面があると思うので、ぜひとも、この縦の連帯関係を見習わなければならないと思います。

この五日間の中で、いろいろな面から、たくさん事を学びました。また、全国各地の、新たな友達をつくることもできました。これから先、この貴重な体験を生かして新しい自分の道を切り開き、社会に役立つ人に成長していきたいと思っております。

いろいろとお世話いただいた日本PTAの役員の皆様方、本当に有難うございました。

＜福島＞

子供の健全育成をめざして
校外補導部の活動

福島市立渡利中学校PTA

今日、新聞、テレビ等のニュースを賑している非行、いじめ等の問題などを見るにつけ、我々親は、常にわが子は大丈夫かなと、不安な毎日を送っています。

私達、渡利中学校補導部の役員もそれぞれ同じ気持ちで、親が少しでも子供の役に立てばをスロガンにして、六月～九月にかけて週三回、午後八時三十分の約一時間、子供たちの集まりそうな所、



(夜間巡回補導に成果)

各町内から二～三名選出された役員とそれぞれの御主人が大変協力してくれ、夫婦一体となり巡回出来ましたことは、わが子を夫婦で見守る姿勢の現われと思われ、大変良い成果となりました。さらに、渡利小学校補導部、地区青少年健全育成推進会も加わり、地域全体の活動に発展致しました。子供たちを暖かい目で見守ることが、子供の健全育成のためには重要であると感じました。

懇談会を行いました。働く婦人が多くなっている昨今、どうしても学校の授業参観に出席できない場合も多くなり、学校の現状を家庭へ、家庭の悩みを学校へ。」を伝えることができ、また、母親ばかりでなく、父親も参加して、子供たちの甘さや自分たちの成長時代の違いなどを熱心に話し合われました。

学校側からも、服装、遅刻の状況、授業中の態度等、詳しくお話があり、授業参観では知る事の出来ない面も知らされました。この結果、家庭では、子供とじっくり話し合う機会が持て、難しい年頃の子供の気持ちを理解し、善悪を教える絶好の機会となったのです。

今後、更に明るい地域社会を目標して、補導部一同頑張っていきたいと思えます。

特色あるPTA活動

＜郡山＞

会員の教育力を高める
組織活動

郡山市立郡山第五中学校PTA

本会は昭和22年に発足 名称変更などの経過を経て今日に至っている。会員730名、事業費約500万、子弟教育を第一に会員一人となつて五中教育にとりこんでいる。これらの実績に対して昭和60年度 東北PTA連絡協議会並びに福島県PTA連合会より優良PTAとして褒賞を受けて。

二、地域社会の環境浄化活動の推進
地区青少年健全育成協議会との連携活動 地域行事への参加奨励など環境浄化・社会参加への援助をすすめている。

三、教育条件整備のための活動
学校の情報的條件を整えるための活動に力を入れている。校地周辺や花壇への花の植え込み作業 護美箱作り等、生徒の美化活動と一体化した事業を展開して、教育条件の整備に努めている。

四、会員の連帯感・帰属意識を高める活動
ソフトボール・バレーボールなど親善球技会により、学年の枠組を越えて交流が図られ、親善の実をあげている。



(護美箱作りに尊い汗)

また広報紙(季刊・速報)は、会の組織活動の様子や会員の声などを編集して、会と会員を繋ぐかけ橋として、学校と家庭を結ぶパイプとして、心の絆を強くしている。五、PTAの本旨に立脚した健全な運営
学校とPTA、教師と保護者の協力体制の課題は古くも新しいものである。本会は常にこの課題を組織活動の実際で、また子弟教育の実践において、立場の違いを越えた次元でそれぞれの任務を全うするなかで解決して、こうと取り組んでいる。

<北会津>

親と子のふれあいを通して
学年PTA活動

猪苗代町立千里小PTA

「観光猪苗代」の表玄関、会津磐梯山と猪苗代の中央にあり周囲は見渡す限りの田園地帯で、人口二七六〇、戸数六八三、児童数二五三名の学校である。本校PTAは、会員一人一人が流行におぼれず「親として今何をなすべきか」をテーマに、学校や地域との連帯を深めながら児童の健全な成長を促進していけるよう最大の努力をしている。



(流紋焼の陶芸実習)

その手段として、PTA手帳の発行により、学校・PTAの諸活動の内容を把握し、相互の理解を深める。さらに児童と親のふれあいについては、近年各家庭では一般に共稼ぎが多く、児童も各種のスポーツ関係の練習で互に多忙をきわめ、ふれあいの時間的ゆとりが少ないため、本校PTAとしては、親と子のふれあいを重視し、児童とのふれあいの場やその機会づくりのための諸活動の計画を立てている。そのことにより、親も子も共に楽しく今までに経験しなかつたことを通して、目的を達成するよう努力している。本年度実施された学年PTA活動の一部を紹介する。

○一年生の花火大会○二年生の早起きマラソンと朝食会○三年生の民宿生活○四年生の親子ソフトボール試合○五年生の天鏡閣より七折峠折り返しの自転車ハイクなど。内容をくわしくお知らせできませんが、六年生の行事の一端をあげるならば、昔から伝わる田舎ならではの行事、十三参りである。三台のバスで柳津国蔵尊参拝と見学、厄ばらいを終えて、美坂高原牧場へ、歌ありゲームあり、そしてバーベキューで腹一杯親と子で舌づつみ、そして会津本郷へ、流紋焼の陶芸実習である。親も童心にかえつてのひとときできあがってくるまでの楽しみでもある。今後の行事としては、十月下旬五・六年の稲刈り。昔ながらの手がりである。十一月は各種スポーツ大会の労をねぎらう四年生以上の餅つき大会。一月になる

と雪国特有のスキー教室。二月には、全校スキー大会と地域ならではの楽しい行事が待っている。

<いわき>

「ひらくぼ」に根ざした
PTA活動

いわき市立平第四小学校PTA

本校は平の中心部に近い農村の学校として創立百年有余の伝統を誇っている。現在は住宅地として人口増も著しく発展している。各家庭、地域の児童教育の関心も高く、PTA活動に対する熱意と協力が昭和四十八年の福島県教委表彰・昭和六十年文部大臣表彰を受賞する程に認められている。

特色あるPTA活動

PTAの特色ある活動としては(1)学校と家庭の連携理解の場としてのPTとTの全校懇親会(十二月)



(総務委員会の会議)

祭礼みこし行列。⑦マラソン大会。⑧スキー教室等積極的に取り組んでいる。次に専門部活動として(1)総務委員会Ⅱ「アンケート調査により会員の声を次年度に生かす工夫。PTA手帳の発行により新会員の理解と協力・球技大会を開き懇親を深める。(2)教養委員会ⅡPTA研修の場の設定(教育講演会(十月)会報「ひらくぼ」(年二回)「ふれあい」(年三回)の発行を通して共通理解。会報の内容としては、特に今年は親子のふれあいを中心におき、「我が家の夏休みのプラン」「教室の窓」「地区だより」「校舎改築中のため、「校舎改築状況」「専門委員会だより」等、ほかに学校行事の紹介、学校・家庭児童の声を吸い上げる。速報「ふれあい」は主としてP側委員が母親の声を中心として編集し手書きファックス刷りとし、本音を出した両親の作品集として好評である。内容として「親子の接し方」「我が家の生活の知恵」「我が家の味自慢」「詩」「短歌」「俳句」等両親の声をのせている。(3)母の会Ⅱ子どもを交通事故から守る一環としての活動の広報街頭活動を年四回実施しPR活動九月にはマスコットづくりをし児童又職員から交通標語を募集し、マスコットにつけてドライバーに安全を呼びかけること八年になる。その他危険箇所の発見、陳情活動を通して側溝、金網等の増設等。これからも地味に着実に進めたい。

昭和61年度県PTA安全互助会 加入状況 (61.10.1)

区分 地区	小 中 学 校 別 計					
	小学校		中学校		合 計	
	加入 単P数	加入率 %	加入 単P数	加入率 %	加入 単P数	加入率 %
福島	46	95.8	17	81.0	63 (19)	91.3
達南	13	100.0	3	100.0	16 (2)	100.0
伊達	28	93.3	7	100.0	35 (8)	94.6
安達	31	94.0	9	75.0	40 (13)	88.9
郡山	54	93.1	18	72.0	72 (2)	86.7
岩瀬	17	70.8	8	61.5	25 (1)	67.6
石川	26	100.0	7	87.6	33 (6)	97.1
田村	34	89.5	14	82.4	48 (8)	87.3
西白河	25	92.6	11	78.6	36 (8)	87.8
東白川	16	72.7	2	50.0	18 (2)	69.2
若松	14	87.5	6	66.7	20	80.0
北会津	16	100.0	6	100.0	22 (2)	100.0
両招	16	84.2	4	36.4	20 (4)	66.7
大沼	10	100.0	4	100.0	14 (2)	100.0
耶麻	27	81.8	11	73.3	38 (1)	79.2
南会津	19	100.0	11	100.0	30	100.0
いわき	47	67.1	22	52.4	69 (10)	61.6
双葉	19	100.0	11	100.0	30 (5)	100.0
相馬	32	100.0	14	100.0	46 (15)	100.0
合計	490	88.6	185	74.9	675(106)	84.4

県PTA安全互助会だより

加入率84%

県PTA安全互助会加入につきましましては、皆様の御理解と御協力により今年度は、八〇〇校中、六七五校加入し、八四・四%に達した。

地区別に見ると、達南、北会津、大沼、南会津、双葉、相馬の六地区が、加入率一〇〇%となり、昨年度より一地区増えた。しかしながら、PTAと児童の一括加入率は全体の六〇%であり、あと

の四〇%は、PTAのみ児童のみ、希望者のみの加入校であり、人数からみると六三%の加入率と低い。今後は、PTAと児童の一括加入を強化、推進し、皆様のお力添えをしていきたいものである。

いどんな傷害が対象となるか

・犬にかまれる。
・食事中、お湯をこぼした

やけどをする。
・工作中、カッターナイフで指をきる。
・校庭、公園等で遊び中の傷害が対象となる。

△PTAの場合▽
PTA主催による諸行事(奉仕作業、PTA球技大会、子供会、地区PTA大会、親子のつどい)の傷害、PTA行事に参加するための往復途上の傷害(交通事故も含む)が対象となる。
なお、四月一日以降の傷害で、まだ未請求のものがあれば、提出していただきたい。

第10回子どもの災害事故防止ポスター・習字募集実施要領

主催 福島県PTA連合会
同 安全互助会
後援(予定)
福島県教育委員会
福島県小学校長会
福島県中学校長会
福島民報社
福島民友新聞
福島県小・中学校
福島県小・中学校
募集要項参照(十一月中旬各小中学校へ配付)
応募締切 昭和六十二年一月末日
提出先 県PTA連合会事務局
入選発表 昭和六十二年二月下旬
福島民報・福島民友・県連P会報掲載
優秀作品表彰 賞状・記念品を添えて表彰する。
多数の応募をお待ちしております。



第22回小中学校新聞コンクール 応募要項

小中学校新聞コンクールについては、民友新聞社が主催で本年度は第二十二回となりますが、県連Pも昨年度より共催することになりましたことをご承知のことと存じます。つきましては、今年度の応募要領は次のとおりですので、多数の応募を希望いたします。

主催 福島民友新聞社
共催 福島県PTA連合会
後援 福島県教育委員会
福島県小学校長会
福島県中学校長会
対象 福島県小中学校並びにPTA発行新聞
応募要領 十一月初旬募集要項配布する。
応募締切 昭和六十一年十二月十五日
提出先

福島民友新聞社
表彰
活版の部、騰写の部とも、最優秀、優秀、佳作を表彰する。
なおPTA新聞の最優秀・優秀新聞は、日P主催PTA広報紙コンクールに出品する。

編集後記

▼会報第22号「郡山大会特集号」をお送りする。
▼今回は東北大会も兼ね参加者二千五百余名。すばらしい運営と、みごとな演出、心あたたまる配慮で、感動のさめやらぬうちに、大会関係の原稿写真一切が、編集部へ届いた。▼そのほかの原稿もたいした催促もなしに全部揃い、こんなに早く発行できたこと、心から感謝している。▼大会参加者も、都合で参加できなかった方も、紙面で、大会の様子を立体的に眺め直して、各単Pに役立てるとともに、雰囲気充分に味わってほしい。
▼秋たけなわ、いい季節を迎え、各単Pでは、いろいろな活発な行事が展開されるものと期待したい。